

地球温暖化対策実行計画（事務事業編）に基づく取組み状況の公表

「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき策定した「伊達地方消防組合地球温暖化対策実行計画【事務事業編】」に係る、温室効果ガス総排出量等について、2024年度の実績状況について次のとおり公表します。

伊達地方消防組合の事務事業における温室効果ガス総排出量

伊達地方消防組合（以下「本消防組合」という。）の業務により排出される温室効果ガス（二酸化炭素（CO₂）、メタン（CH₄）、一酸化二窒素（N₂O）、ハイドロフルオロカーボン（HFC）の4種類）を2030年度末までに2019年度（基準年度）から約26%削減することを目標としています。

「伊達地方消防組合地球温暖化対策実行計画【事務事業編】」に基づき、年度の取組み目標を設定し、省エネルギーの推進等に取り組んだことにより、2024年度においては、前年度比29.9 t-CO₂、基準年度比65.6 t-CO₂を削減しております。

温室効果ガス総排出量

年度/総排出量等	温室効果ガス総排出量	前年度比	温室効果ガス総排出量の基準年度比
2019年度	393.4 t-CO ₂	---	---
2020年度	383.2 t-CO ₂	2.59%削減 (10.2 t-CO ₂ 削減)	2.59%削減 (10.2 t-CO ₂ 削減)
2021年度	357.0 t-CO ₂	6.84%削減 (26.2 t-CO ₂ 削減)	9.25%削減 (36.4 t-CO ₂ 削減)
2022年度	367.2 t-CO ₂	2.86%増加 (10.2 t-CO ₂ 増加)	6.66%削減 (26.2 t-CO ₂ 削減)
2023年度	357.7 t-CO ₂	2.59%削減 (9.5 t-CO ₂ 削減)	9.07%削減 (35.7 t-CO ₂ 削減)
2024年度	327.8 t-CO ₂	8.36%削減 (29.9 t-CO ₂ 削減)	16.68%削減 (65.6 t-CO ₂ 削減)

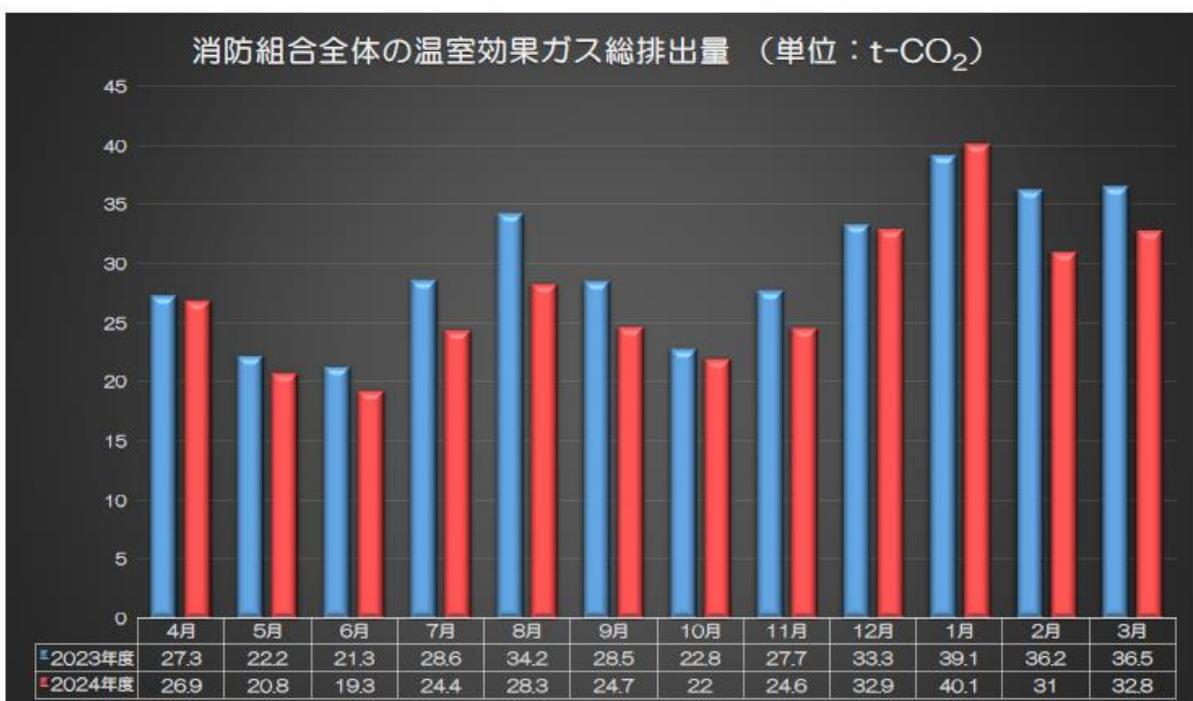
2024年度の温室効果ガス総排出量月別推移・内訳詳細

◆本消防組合全体の温室効果ガス総排出量の月別推移

2023年度と比較し、1月について総排出量の増加がみられますが、それ以外の月では総排出量の減少がみられました。

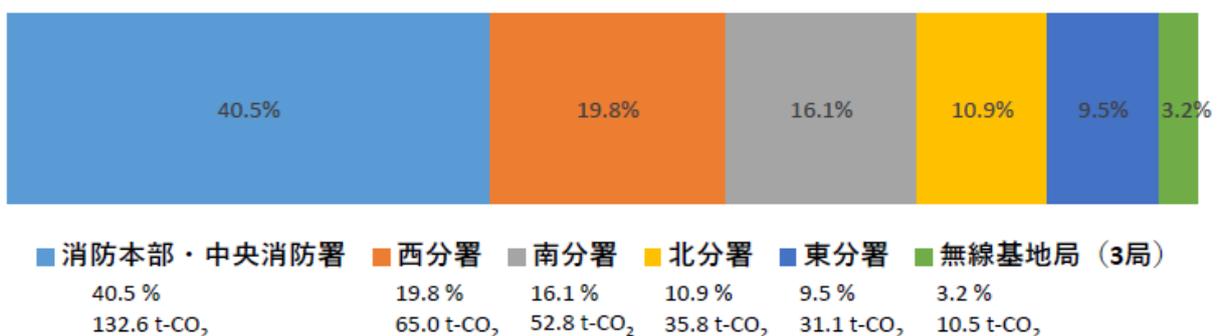
総排出量が増加した月の要因は、冬季の気温低下・積雪等により、2023年度より室内の温度差に大きく影響し、電気設備の使用時間が長くなったことが主な要因です。

総排出量が減少した月の要因は、増加要因を踏まえ、更なる省エネルギーの推進等により、空調機の運転時間、適正な温度管理・メンテナンスの徹底及び庁舎照明の消灯（間引き照明）の徹底等の施設設備等の効率的な運用等によるものです。



◆施設別の温室効果ガス総排出量

2024年度における施設別の温室効果ガス総排出量は、「消防本部・中央消防署」が最も多く全体の40.5%（132.6 t-CO₂）を占め、次いで「西分署」19.8%（65.0 t-CO₂）、「南分署」16.1%（52.8 t-CO₂）などとなっています。



◆温室効果ガス別の内訳

温室効果ガス別では、そのほとんどが二酸化炭素（323.5 t-CO₂）で全体の約99%を占めています。



■ CO₂ (二酸化炭素)

323.5 t-CO₂ / 98.7 %

■ CH₄ (メタン)

1.3 t-CO₂ / 0.4 %

■ N₂O (一酸化二窒素)

2.5 t-CO₂ / 0.8 %

■ HFC (ハイドロフルオロカーボン)

0.5 t-CO₂ / 0.2 %

◆項目分類別の内訳

項目分類別では、そのほとんどが電気（179.0 t-CO₂）で、次いでガソリン、軽油、LPG、灯油などとなっております。



■ 電気

179.0 t-CO₂ / 54.6 %

■ ガソリン

84.2 t-CO₂ / 25.7 %

■ 軽油

45.4 t-CO₂ / 13.9 %

■ LPG

10.5 t-CO₂ / 3.2 %

■ 灯油

4.4 t-CO₂ / 1.3 %

■ 自動車の走行

2.3 t-CO₂ / 0.7 %

■ し尿・雑排水の処理

1.5 t-CO₂ / 0.4 %

■ 自動車用エアコンディショナー

使用・廃棄 0.5 t-CO₂ / 0.2 %